

様式 5

西海ブロック水産業関係研究開発推進会議漁業資源・海洋環境部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1 開催日時 平成24年11月16日（金）13：30～17：00
長崎商工会議所2Fホール

2 出席者所属機関及び人数 7機関 26名

3 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開 会	西海区水産研究所資源海洋部長が開会を宣言。
2. 挨拶	午前中の地域増養殖研究部会から継続する出席者が多数であったことから、挨拶は省略した。
3. 座長の選出	前例に倣い、西海区水産研究所資源海洋部長を座長とした。
4. 協議事項	
1) 研究開発の実施状況 に関する事	研究開発課題情報管理システムに登録された各県水試・センター及び西水研の研究課題の中から、水産資源、水産海洋、漁場保全関係課題で漁業資源・海洋環境部会として取り扱うべき課題を抽出して資料として提出し、各参画機関から重点課題や新規設計課題等についての説明を行い、質疑・意見交換を行った。
2) 研究開発の成果 に関する事	研究成果情報管理システムに登録された西海ブロック成果情報のうち、漁業資源分野の成果が2件、海洋環境分野の成果が1件提出されたことから、これらについて担当機関から概要説明を行うとともに、その内容について審議を行った。3課題それぞれについて、以下の様な若干の体裁の修正を施すことをもって承認された。 ア) 西水研提出成果「東シナ海・黄海で大型クラゲの初期幼体（エフィラ）を初めて発見」については、具体的データとして示している図のキャプションに図番号が欠けていることから、これを加筆する。 イ) 佐賀県玄海水産振興センター提出成果「シンクロトロン光を

	<p>利用したケンサキイカの生態解明に関する研究」については、具体的データに示されている表の縮尺が小さすぎて見難いので、この表のシステムへの登録方法を改善する。</p> <p>ウ) 亜熱帯研究センター提出成果「分子同定によるクロマグロ天然卵の検出と八重山諸島周辺海域における産卵環境について」は、本文中の一部語句を修正する。なお、本成果は論文化が完了するまで、WEB掲載と印刷配布は控えることとした。</p>
<p>3) 研究開発のニーズと具体的な取り組みに関するすること</p>	<p>平成23年度の研究ニーズとして佐賀県玄海水産振興センターより提案された「ケンサキイカ季節群の生態解明」について、今年度の対応結果を西水研資源海洋部長が説明した。平成24年1月と4月に、鳥取県、島根県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県と西水研の調査研究担当者が参集し、浮魚類・ケンサキイカ検討会を開催し、各機関の調査研究情報の紹介と生態特性に関する知見の共有に努めた。また、ケンサキイカ季節群の生態解明に向けて、漁況の基礎的情報の整備、東シナ海資源の生物情報等の必要性が指摘された。検討会終了後の連携の一環として、西水研からは東シナ海における調査船調査情報に併せて、平衡石解析のための標本を提供した。また、平衡石のストロンチウム濃度のトレースと日齢査定により、季節群の生活履歴の解析に成果を得られる可能性があることから、各県が採集した標本の平衡石も利用できるように調整がなされた。さらに、ケンサキイカ仔稚の移動分散経路を検討するために、西水研において海洋動態モデルから得られる流動場についての情報を提供し、その輸送ルートの検討が行われた。ケンサキイカ検討会を継続開催することとして調整を行っているが、会議旅費支出については各県の努力を願うこととした。提案県より、委託事業費による予算手当は困難としても継続した対応が要望された。</p> <p>平成24年度に向けてブロックから提案された研究ニーズの中で、漁業資源・海洋環境部会として取り扱うべき課題はなかった。</p>
<p>4) その他必要と認められる事項に関すること</p>	<p>ア) マイワシを中心とする日本海西部における広域漁業対象魚種の調査拡充要望に対する対応経過について、西水研より報告を行った。平成24年2月の全国推進会議において提出された要望については、関係機関での調整を行って、対象種評価担当の西水研とブロックを担当する日水研が協力して、既存調査からの知見の有効活用、研究情報の共有などを含んで対応を進めることとなった。平成24年5月にマイワシ検討会を鳥取県水試において、鳥取県、島根県、水研センター本部、日水研、西水研の出席により開催した。検討の結果、稚魚の分布状況を把握する必要があるとして</p>

<p>5. その他</p> <p>6. 閉会</p>	<p>ネット採集を調査に組み込むこととし、予算措置について検討した。マイワシのシラス期の分布が推定できる5・6月のニューストン海洋環境の変化がマイワシやカタクチイワシの加入量変化をもたらす可能性も考えられることから、動物プランクトン及び胃内容物調査の必要性が指摘された。さらに、環境やレジームとのかかわりを考えれば、過去の資試料の分析の重要性も指摘され、卵質や安定同位体比の分析等を実施することとした。検討結果を受けて、必要とされる調査拡充に対応するために、水研センター研究課題ア- (イ) -ア「海洋生態系の構造と機能の解明」の下に、細部課題「日本海西部海域におけるマイワシ資源変動メカニズム緊急調査-仔稚魚分布と生残過程の実態把握」を配置して、関係県の協力を得ながら進めることとした。</p> <p>イ) 平成24年度制度設計課題における場長会要望(漁海況モニタリング)について、水研センター本部森永コーディネータより、資料に基づいて、地域水産試験研究振興協議会での概要と今後の対応について説明を行った。</p> <p>ア) 平成25年度水産庁予算要求の概要について、10月に開催された長期漁海況予報会議に際して水産庁から提供された情報に基づき西水研資源海洋部長より説明。</p> <p>イ) 西海ブロック水産業関係研究開発推進会議に向けた要望の中で人材育成として捉えるべき事項の中に、資源管理研修の開催が鹿児島県から事前に要望された。水試担当者の理解を深め、資源評価を担当することを可能とするための具体的で小規模な研修については、鹿児島県だけでなく他県からも開催に向けた賛同があった。そのため、西水研としてこのような研修会開催に向けた調整を行うこととした。</p> <p>資源海洋部長が閉会を宣言。</p>
----------------------------	--